



6 その他国有林野の管理経営

6 その他国有林野の管理経営

(1) 人材の育成

国有林野事業では、「国民の森林」の管理経営にふさわしい人材を育成するため、森林・林業に関する専門的な知識や技術等について、森林技術総合研修所や各森林管理局が連携を図りながら、研修を行っています。

平成19年度には、初めて森林管理署長等に任用された職員を対象として、管理指導能力等の向上を図るための研修を新たに実施するとともに、引き続き民間派遣研修、OJT^{注)}、民有林行政等との人事交流にも取り組みました。

事例 「中部森林技術交流発表会」の開催

中部森林管理局では、管内の行政機関、試験研究機関、大学、高校等と連携して、森林・林業に関する専門的な知識・技術の共有や普及を目的として、「中部森林技術交流発表会」を開催しています。

平成19年度には、11課題について発表を行い、業務研究の成果の共有に努めました。

(中部森林管理局)



場 所：長野県長野市（中部森林管理局）

場 説 明：写真は、「中部森林技術交流発表会」の様子です。

(2) 林業技術の開発普及

各森林管理局では、森林技術センターを中心に、地域の特性に応じた林業技術の開発に取り組んでいます。取組成果については国有林野の管理経営に活かすとともに、現地検討会等を通じて地域の林業関係者等への普及にも努めています。

平成19年度は、複層林化や針広混交林化など多様な森林づくりに向けた施業技術の開発をはじめ、植栽や間伐等の低コスト化の取組等、112の技術開発課題に取り組みました。こうした技術開発は、研究機関や大学等とも連携しながら進めています。

事例 天然林におけるスギ天然更新技術の確立に向けた現地検討会の開催

四国森林管理局森林技術センターでは、高知県東部に生育するヤナセスギを保存する千本山林木遺伝資源保存林において、後継樹となる稚樹がほとんど生育せず、将来はヤナセスギが衰退し、モミ・ツガを主体とする森林に移行してしまうと考えられることから、スギ以外の樹木を主体的に抜き伐り、天然下種更新^{注)}による更新技術の確立に向けた調査・研究を行っています。

平成19年度には、大学や(独)森林総合研究所等とともに現地検討会を開催して、稚樹の生育状況を確認し、下刈りの必要性やシカの食害対策等について検討を行いました。

(四国森林管理局 森林技術センター)



場所：高知県安芸郡馬路村 ^{あき うまじ} 和田山国有林 ^{わだやま} (安芸森林管理署管内)
 説明：写真は、現地検討会(左上)とヤナセスギの稚樹の生育状況(右下)の様子です。

表 - 27 技術開発の取組状況

項 目	主 な 内 容	課題数
水土保全を重視した森林施業及び保全技術の確立	○ 湿性ボトゾル地帯の更新方法の開発 ○ 有用樹のぼう芽等を活用した早期・低コスト広葉樹林造成技術の開発	39
森林と人との共生を重視した森林施業及び利用技術の確立	○ コウヤマキの天然更新試験 ○ 金ポタルの生息する森林における施業の確立	9
資源の循環利用・有効利用技術の確立	○ ヒバの巣植えによるヒバ・広葉樹混交林施業の確立 ○ 低コスト路網を活用した効率的な間伐方法の確立	35
効率的で安全な作業技術の確立	○ 伐採方法別によるカメラ付きケーブル・グラップル集材^{注)}の実用化について ○ コンテナ苗における広葉樹更新技術の開発	11
効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術の確立	○ 希少種イトウの生息環境づくりの溪畔林施業技術の確立 ○ 天然林におけるスギ更新技術の確立	18
課 題 数 合 計		112

(3) 地域振興への寄与

国有林野事業は、計画的な木材の供給（38ページ参照）、事業の民間委託を通じた事業体の育成や就労の場の提供（47ページ参照）、国有林野の貸付けや売払い（42ページ～43ページ参照）、森林空間の総合利用（44ページ参照）、分収林制度の活用（18ページ参照）、流域管理システムの推進（11ページ参照）等を通じて、地域産業の振興、地域の活性化、住民の福祉の向上等に貢献しています。

(4) 労使協力の推進

「国民の森林」の実現に向けて、公益的機能重視の管理経営を推進していく中で、労働組合との共通の認識の醸成に努め、その理解と協力の下で改革を推進するよう努めています。

事例 観光資源としての国有林野を活用した地域の振興

網走中部森林管理署では、地元自治体や観光協会等と連携し、「森の巨人たち百選」に選ばれた「三本桂^{さんぽんかつら}」を観光資源とした地域振興に取り組んでいます。

平成19年度には、遊歩道のガイドロープ^{かのこさわ}や樹名板を設置するとともに、一般の方々を対象に「森林ウォーク鹿の子沢」と名づけたイベントを開催し、その一環として、森林内のコンサートを実施しました。

（北海道森林管理局 網走中部森林管理署）



場所：北海道^{ところ}常呂郡置戸町^{おけと} 鹿の子沢国有林
 説明：写真は、「三本桂」の前で開催した森林内のコンサートの様子です。

事例 地域の伝統文化を支える取組

南信森林管理署では、長野県諏訪^{すわ}地方の伝統行事である御柱大祭に使用するモミの巨木を確保するために、「木の文化を支える森づくり」として「御柱^{おんばしら}の森」を設定していますが、近年、シカによる食害が発見されたことから、協定締結先である御柱の森林づくり協議会と連携し、被害対策として防護ネットの設置などを実施し、伝統文化の継承による地域の振興に取り組んでいます。

（中部森林管理局 南信森林管理署）



場 所：長野県諏訪^{しもすわ}郡下諏訪町 東^{ひがしまた} 俣国有林

説 明：写真は、シカによる食害の被害調査（左上）と防護ネットの設置（右下）の様子です。

事例 鉱山跡地の森林再生による地域の振興

盛岡森林管理署では、旧松尾鉱山の煙害等により植生が衰退している赤^{あか}川^{がわ}山^{やま}国有林において、東北地域環境計画研究会、いわてNPOセンター等と連携して森林再生に取り組んでいます。

平成19年度には、これまで緑化を実施してきた箇所の現地検討会を開催するとともに、公募によって参加者を募り、植樹活動を実施しました。

（東北森林管理局 盛岡森林管理署）



場 所：岩手県八幡^{はちまんたい}平市 赤^{あか}川^{がわ}山^{やま}国有林

説 明：写真は、これまで緑化を実施してきた箇所の現地検討会（左上）と公募により募った参加者による植樹活動（右下）の様子です。